

災害時の支援に向けた、顔の見えるネットワークのために

第1回

みやざき災害中間支援連絡会 & 災害中間支援コーディネーター育成研修

【日 時】2025年12月8日(月)14:00~16:10

【会 場】延岡市役所2階講堂 〒882-8686 宮崎県延岡市東本小路2-1

※終了後会場を移動して16:30より防災道の駅北川はゆま視察

みやざき災害中間支援連絡会

- ・災害中間支援概要説明 & 被災者支援登録について
- ・参加者紹介 & 情報共有

災害ボランティア支援体制整備事業

災害中間支援コーディネーター育成研修

～災害時に必要となる中間支援とはどんなことなのか？～

講師：鈴木隆太氏（一般社団法人おもやい代表）



Supported by 日本 THE NIPPON
財團 FOUNDATION

防災道の駅 北川はゆま 視察 (希望者)

889-0102 宮崎県延岡市北川町長井5751-1

※会場より車で20分程度、現地へは各自で移動をお願いします。



※「災害中間支援」、「講師紹介」、「防災道の駅」については裏面参照ください

皆様のご参加お待ちしております！

お申込みは右記 二次元バーコード👉
もしくはお電話 (0985-60-3911) でお願いします。

申込締切：2025年12月1日(月)



【主催・お問合せ】

宮崎県災害中間支援ネットワーク(事務局：NPO法人 宮崎文化本舗)

TEL：0985-60-3911 E-mail：bunka_info@bunkahonpo.or.jp (担当：石田、後藤、名田)

ホームページ：<https://miyasaitai.net/>

本連絡会は、宮崎県災害中間支援ネットワーク（事務局：宮崎文化本舗）が、宮崎県の「災害ボランティア支援体制整備事業」補助金を活用し、宮崎県内における災害時の広域的な支援体制づくりに向けて、県北・県央・県南の3地域において実施するものです。

災害中間支援（組織）とは？

災害中間支援組織とは、被災地で活動する地域団体・NPO・ボランティアと、行政・社会福祉協議会・企業・基金などの支援資源をつなぎ、支援の重複や取りこぼしを防ぐ“調整機能”を担う組織です。

大規模災害では、支援する側と支援を必要とする側の情報が十分に結び付かず、支援が届きにくい、または一部に偏るといった課題が生じてきました。このため、平時から関係機関連携・情報共有・人材育成の体制等のネットワークを整え、発災時には迅速なマッチングや広域的な支援調整を行う仕組みが求められています。

こうした中間支援機能は全国的に整備が進められており、民間団体と行政が役割を分担しながら、災害時の“ハブ”となる体制がつくられつつあります。宮崎県においても同様に、令和7年度から宮崎県災害中間支援ネットワーク（災害中間支援組織）の事務機能を特定非営利活動法人宮崎文化本舗が担い、平時・災害時を通じた支援ネットワークの構築に取り組んでいます。

講師紹介【一般社団法人おもやい代表理事 鈴木 隆太 氏】

鈴木隆太氏（一般社団法人おもやい代表理事）は名古屋市出身。阪神・淡路大震災をきっかけに災害ボランティアに関わり、「被災地 NGO 協働センター」の立ち上げにも参画し、国内外の災害支援に携わってきました。その後も新潟県中越地震や熊本地震などで復興支援に取り組み、地域に寄り添う支援の実践を積み重ねてきました。

令和元年に、「令和元年8月の前線に伴う大雨」で地元・武雄市が被災したことを契機に、市民を中心に「チームおもやい」を立ち上げ、現在は一般社団法人としてボランティアの受け入れや支援活動を行っています。2022年の大雨の際には宮崎県でも延岡市・都城市での支援に携わり、多数の越境支援の現場経験も有しています。

防災道の駅とは？

「防災道の駅」とは、都道府県の地域防災計画に基づき、災害時の広域的な防災拠点として位置付けられた道の駅のことです。平常時は観光・交流の拠点として機能しつつ、災害発生時には救援物資の集積・輸送、避難・滞在、情報発信などを担います。国土交通省による支援のもと、非常用電源や備蓄スペース、通信環境の確保などハード面の整備に加え、訓練や地域連携などソフト面の強化も進められています。宮崎県内では「道の駅 北川はゆま」（延岡市）と「道の駅 都城 NiQLL」（都城市）の2か所が指定されており、広域的な支援拠点として整備が進められています。